

大会時・コロナ禍での取組

- ・東京2020大会の開催を見据え、取組の検討を開始
- ・2019年6月：2020TDM推進プロジェクトに登録

人の流れ

きっかけ

以前より実施

オリバラ

コロナ禍

- テレワーク**・・・実施率約8割（営業部では約2割。荷物の積降しを行う部門ではある程度出社）
- オフピーク通勤**・・・従前の制度を活用。実際には殆ど未実施
- 会議等のオンライン化**・・・社内外ともにオンライン会議
- 計画的な休暇取得の促進**・・・既存制度の活用（6～10月に5日間取得）
- サテライトオフィスの利用**・・・民間のサテライトオフィスとも契約
- 書類の電子化**・・・2割程度を電子化。他は紙媒体が多数

物の流れ

きっかけ

以前より実施

オリバラ

コロナ禍

- 発注時期の調整**・・・オフィスサプライ（コピー用紙や文房具等）は通常より多めにストック
- 配送時間の調整**・・・交通規制エリア周辺の顧客に大会期間中の配送遅延のアナウンスを文書で実施
- 取引先との配送に関する調整（リードタイムの緩和含む）**
半日程度の余裕を持たせて荷物の引き取り
- 社内便の調整**・・・外部委託。委託先とスケジュールや時間の調整を実施
- 海上輸送コンテナの対策検討**
ドライバーとの情報共有により対応

取組ポイント

- 全社員にノートPCを貸与
- 物流担当部門は調整しながら交代で実施
- 自社の事務所の空きスペースをサテライトとして整備

取組ポイント

- 事前に顧客にアナウンス
- 社内便は委託先に会場周辺の交通対策の情報を事前に共有
- 航空機の影響も事前に航空会社と連絡取り合い情報を把握
- ドライバー等との日々のコミュニケーションで混雑時の対応についても掌握

今後の取組

人の流れ

今後の取組については協議中
(2021年11月現在)

テレワーク

- ・本社では現在でも実施率約8割（2021年11月現在）
- ・テレワークで業務効率が低下する面もあるため今後は未定

※事業所ごとの事情に合わせて実施予定

物の流れ

取引先との配送に関する調整

- ・船舶、航空機、トラック等の運送手段は保有しておらず、運送や輸出入に関する取次がメイン
- ・多様な輸送形態を利用しながら物流をアレンジ
- ・サミットやオリンピック・パラリンピックを含むスポーツの国際大会は世界中で多く開催されており、その度に物流が制約を受けることはあるが、世界中で情報が共有されているため、実施される都市の情報を把握し、その都度対応していく

【東京2020大会を振り返って】

- ・大会期間中に発注を受ける量はそこまで多くなく、顧客側でも多少は発注時期の調整を検討していた可能性はある。
- ・東京2020大会の会場周辺交通対策の情報はとても役立つ。規制区域の中に事務所があったものの、前もって状況確認ができ、事前に対策できたため非常に調整しやすかった。情報が細かく、分かり易かったと思う。
- ・東京2020大会のために通常行ってないことを行うような変更は難しいが、実際、大会期間中も通常通りの配送だった。
- ・東京2020大会の延期や無観客開催がどの程度影響を及ぼしたのかは不明であるが、大会が開催される1か月前に交通規制情報の提供があったため、振り回されることもなく、ちょうど良かった。1か月前に情報提供があれば、過去の経験から対策が検討できる。